

[講演要旨]

1943年鳥取地震直後に実施された東京大学地震研究所の 現地調査の足取り

香川敬生*・畑岡寛(鳥取大学)

§ 1. はじめに

1943年鳥取地震直後に、東京大学地震研究所が現地調査に入った際の未公開写真 221 枚が発見され、鳥取大学の研究グループで分析を進めている。戦時中の時代背景から、現存している被害写真は少なく、たいへん貴重な資料と考えられる。

写真から推し量られる調査行程は、鳥取市街から断層が現れた鹿野町への調査途上で撮られたものと思われる。東京帝国大学地震研究所彙報第 22 号第 1 冊(昭和 19 年 3 月)に掲載された論文に関連して撮影された一部と考えられる。そこで、写真に遺された情報を解釈し、現地踏査を組み合わせることで、当時の調査ルート解明を試みた。

§ 2. 撮影地点の特定

発見された写真の大きさは2種類あり、それぞれブローニー版(6×4.5cm)とライカ版(35×24mm)フィルムのダイレクト・プリントと思われる。ブローニー版のみ裏に撮影地の概略メモが残されているが、具体的な撮影地点や撮影方向が特定できるものは少ない。また、フィルム毎に袋詰めされてはいるが、フィルム間およびフィルム内の順番は整理されていない。まず、サイズの大きいブローニー版を用いて、調査行程の概略を仮定し、同じような風景が撮影されている、ライカ版の撮影順を大まかに整理した。

その上で、背景に山地などが写っているものについて、Google Map や 3-D 標高マップで見られる山地形状を参考に概略の撮影地を仮定した。寺、神社、橋など特徴的なランドマークが写っているものは、想定されるルート上で対象となりそうな地点をピックアップした。これらを踏まえて現地踏査をおこない、撮影場所を特定していった。鳥取市気高町宝木における事例を図 1 に示す。



図 1 宝木橋の当時(左)と現在(右)

§ 3. 現地調査の足取り

特定された撮影位置について、フィルムの並びを参考として、当時の街道を利用して、できるだけ寄り

道の少ない調査ルートとして、鳥取—松保—湖山—伏野—末恒—内海(白兔)—小澤見—宝木—浜村—中園—勝谷—(加知弥神社)—今市—鹿野を推定した。その結果を図 2 に示す。なお、湖山—末恒間は山陰線に沿って移動し、海岸線を浜村まで進んで鹿野に南下したと思われる、吉岡断層は調査されていない。



図 2 推定された現地調査の足取り

§ 4. おわりに

地震当時の調査写真を分析し、撮影位置から調査の足取りを再現することができた。被害写真の撮影場所を特定できたことで、被害程度を分析することができる。これらを用いて別途検討された当時のアンケート震度(西田・他, 2013; 香川・他, 2014)を補完することで、震源域の強震動分布を把握したい。

謝辞 本研究の一部は、文部科学省科学研究費基盤研究(C)「1943年鳥取地震鹿野断層端部における断層変位と強震動が被害に及ぼした影響の分析」(平成 27~29 年度)の助成により実施されました。対象とした写真は西田良平鳥取大学名誉教授が東京大学地震研究所のご好意で活用しているものであり、そのデジタル化作業には、鳥取市歴史博物館の横山展宏氏にご協力頂きました。地図の作成には Google Map を用いました。記して感謝致します。

参考文献

- 香川・他(2014) 第 31 会歴史地震研究会, 講演 47.
- 西田・他(2013) 日本地震学会秋季大会, P2-43.
- 東京帝国大学地震研究所彙報(1944), 第 22 号第 1 冊(昭和 19 年 3 月).